

# 麦作情報 第1号

平成29年11月3日

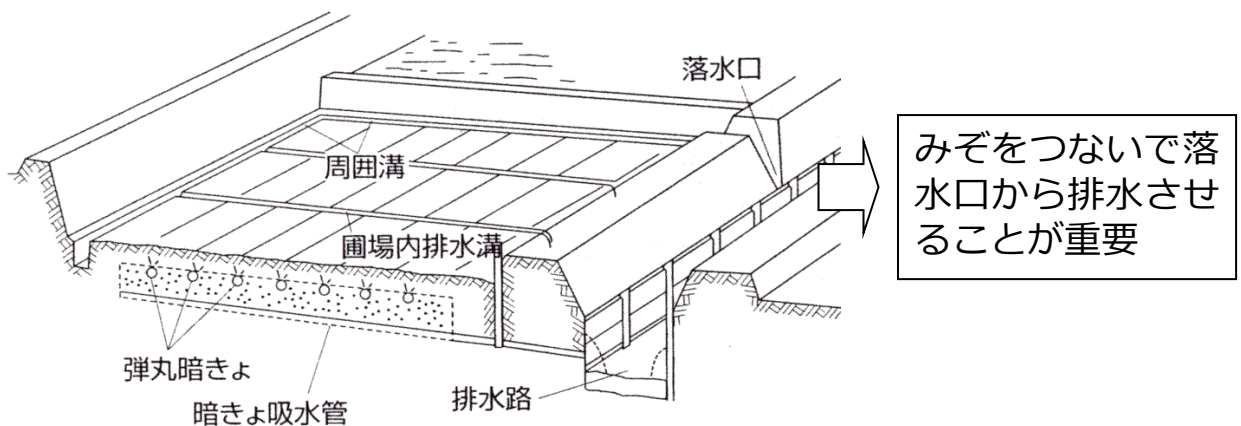
J A む な か た  
北筑前普及指導センター

麦の播種時期になりました。30年産麦は、「基本技術の励行」を合言葉に、部会員全員で収量及び品質向上に取り組みましょう。

## 1 播種前の排水対策と土づくり

### (1) 排水対策（地表排水と地下排水の組み合わせ）

- ア 地表排水は、周囲溝（額縁排水）と、うね溝（圃場内排水溝）が基本
- イ 地下排水は、本暗渠の施工が基本で、補助として弾丸暗渠や心土破碎（サブソイラ等）を施工



### (2) 土壌の酸度矯正

麦は酸性土壌を嫌います。適正な土壌のpHは、6.0～7.0です。特に大麦はpH5.5以下で生育障害が発生します。pHが低い場合は、ミネラルGの散布と合わせ、炭酸苦土石灰、消石灰等の石灰質資材による酸度矯正を行ってください。

### (3) 有機物の施用

- ア 稲わらは焼却せずに全量すき込みましょう。
- イ 堆肥は10a 当たり1～2t 施用しましょう。

## 2 施肥（基肥）

いずれの麦類も基肥はベスト化成444を40kg/10a 施用しましょう。

※大豆後作（大豆が良くできているほ場）の麦については、基肥は基準の半量を目安にしてください。

※前年に大麦でホウ素欠乏による不稔穂が発生したほ場では、微量要素肥料FTEを4kg/10a、基肥と同時に施用しましょう。

## 3 播種

**適期限内に播種を終えるようにしましょう。**

(1) 播種適期：小麦 11月20日～11月30日（晩播限界12/15）

大麦 11月25日～12月5日（晩播限界12/20）

(2) 播種量（10a当たり）

品種名	11月15～20日	11/20～25	11/25～30	12/1～10
しゅんれい	—	5～6kg	6～7kg	8～10kg
チクゴイズミ	5～6kg		6～7kg	(12/1～5) 8～9kg

(3) 種子消毒：トリフミン水和剤0.5%粉衣(種子10kgに薬剤50g)

※小麦でシロトビムシ類による被害が予想されるほ場（大豆後作、低温多湿）は、トリフミン水和剤0.5%粉衣に加えて、アドマイヤー水和剤0.15%粉衣（種子10kgに薬剤15g）の2剤混用で消毒を行いましょう。

## 4 雑草防除（10a当たり）

除草剤名	薬量	散布液量	使用時期
クリアターン乳剤	500～700ml	70～100ℓ	播種直後(雑草発生前)
ボクサー	400～500ml	70～100ℓ	播種後～麦2葉期まで
リベレーターフロアブル	60～80ml	100ℓ	播種後～麦3葉期まで

※除草剤散布の際、土壌が乾き過ぎていたり、土塊が大きい場合は、希釈水量を多くした方が効果が安定します。

※播種前雑草が多いほ場では、ラウンドアップマックスロードまたはプリグロックスLを農薬使用基準に従って散布しましょう。

※従来の除草剤(クリアターンやガレス等)に対する抵抗性雑草(スズメタコウ)の発生が問題となりつつあります。**近年、播種後に雑草の発生が目立つ場合は、抵抗性雑草が発生している可能性がありますので、除草剤をボクサーまたはリベレーターフロアブルに変更しましょう。**

※ボクサーは、麦2葉期まで使用できる登録となっていますが、麦の播種後早めに散布した方が効果は高くなります。

この麦作情報はJAむなかたホームページからもご覧いただけます

[http://www.ja-munakata.or.jp/dt\\_meeting.cgi](http://www.ja-munakata.or.jp/dt_meeting.cgi)

うらへ

# 麦類の収量・品質向上のためのポイント

## 30年産麦類の目標

排水対策の徹底により適期播種、適期作業を実践し、  
麦類の収量・品質の向上を目指す！

ほ場  
準備

### 1 排水対策

- 降雨後の早期排水のため、本暗きよ、弾丸暗きよ、額縁明きよを設置
- ほ場に水を停滞させないため、定期的に畦溝のつなぎ目を切り、排水口へつなぐ

### 2 土づくり

- 堆肥等の有機質資材を投入し、地力の維持・向上と土壌の通気性・透水性を確保
- 苦土石灰等の石灰質資材を施用し、pH6～7.0に酸度矯正  
※土壌診断を行った上で適正量を施用すること

### 3 播種準備

- 必ず購入種子を用い、種子更新を実施
- 種子伝染する斑葉病などを予防するため、種子消毒を実施

耕起  
・  
基肥  
・  
播種

### 4 耕起・播種・基肥施用

- 土が乾いた状態で、耕起は播種作業の直前に
- 前作、ほ場条件、品種特性に応じた適正な基肥量の施用と適期播種の実施
- 播種時期に応じた播種機の調整により、適正な播種量を2～3cmの深さで播種

### 5 雑草防除①

- 前作後のほ場に雑草の発生が多い場合、播種前に非選択性の茎葉処理除草剤を散布
- 播種直後に抵抗性スズメノテッポウなどに効果を示す土壌処理除草剤を散布

雑草  
防除  
①

麦踏み

土入れ

追肥①

・  
追肥②

雑草  
防除  
②

穂揃期  
追肥

病虫害  
防除

収穫

## 6 麦踏み・土入れ

- 茎数の増加、倒伏防止、凍霜害の回避などの効果があるため、**麦踏みを2～3回実施**
- 雑草の発生抑制、ほ場の排水性の向上などの効果があるため、**土入れを2～3回実施**  
※麦踏みと土入れは、土壌が良く乾いた時に  
行い、土入れは麦踏み前に行う

## 7 追肥①、追肥②

- 麦種、品種に応じた**適正な追肥量の施用**
  - ・追肥①(葉齢4～5枚)…茎数の増加
  - ・追肥②(茎立ち期頃)…穂数、粒数の増加
- **追肥後は、必ず土入れを実施**

## 8 雑草防除②

- 雑草の種類に応じた**茎葉処理除草剤で防除**
  - ・イネ科+広葉雑草…ハーモニーDF75水和剤
  - ・広葉雑草…アクチノール乳剤など
- 排水対策による**乾田化、土入れで抑草**

## 9 穂揃期追肥

- タンパク質含有率、粒の充実の向上効果があり、**穂揃期～穂揃期後7日に追肥を実施**  
※「ちくしW2号」、「チクゴイズミ」は必須

## 10 病虫害防除(赤かび病防除)

- **麦種、気象条件に応じて、適期防除**を行う
  - ・小麦…開花期(穂揃期後10日頃)～開花最盛期
  - ・大麦…蒴殻抽出期(穂揃期後10日頃)
  - ・はだか麦…穂揃期(出穂期後2～4日)
- ※2回目の防除は、1週間後に実施

## 11 収穫

- **収穫適期は、子実水分が25%以下**  
(成熟期後3～5日)
- 品質低下を生じるため、**早刈りはしない**
- 倒伏や赤かび粒、穂発芽粒の混入など、**品質低下したほ場は仕分けして収穫**